

2020年4月15日(水曜日)
 (公財)人権教育啓発推進センター様発行の
 人権教育啓発情報誌「アイユ」に
 救缶鳥プロジェクトについて掲載されました!

アイユ

2020年(令和2年)4月15日

■救缶鳥プロジェクト

私たちはパンの缶詰を作っています。パンのやわらかさとしつとりさ、おいしさをそのままに長期保存を可能にした防災備蓄パンです。阪神・淡路大震災(平成7年)の被災者の声をきっかけに誕生しました。パンの缶詰は、大規模災害や新型感染症といった緊急時に備え、地方公共団体や企業、家庭で購入され、備蓄されています。

しかし、総務省の調査によると、平成27年度から29年度までに、国の行政機関の42%が災害備蓄食料の更新時に全て廃棄して

SDGs
 × 人権 × 企業
 (第8回)

株式会社
 パン・アキモト

いることが分かっています。また、農林水産省の平成28年度推計によると、食品廃棄物の約23%が売れ残りや食べ残しなどの食品ロスであるとされています。おいしいパンを常に追求し、提供している私たちにとって、これは大変ショッキングな数字です。そこで私たちは、備蓄したパンの缶詰を廃棄することなく、災害地や飢餓に苦しむ地域の人たちに提供する「救缶鳥」プロジェクトを始めました。3年間の賞味期限のうち、2年半は非常食として備蓄し、後の6か月は義援物資として海外に送るシステ

備蓄したパンの缶詰を無駄にせず
 困っている人たちに届けたい

株式会社パン・アキモトの
 プロフィール

私たちは栃木県・那須塩原の地で昭和22年に創業し、今年で73周年を迎えるベーカーリーです。長い間、地域の方々に支えられてきましたが、昨今の経営環境が激変する中、私たちはパン屋としての原理原則(安全でおいしいパン提供)を守りながら、時代の変化に即応(従業員の成長と技術革新)できる体制を整えてきました。今後は、さらに「本業を通じた社会へのお返し活動の継続」にも注力してまいります。



ムです。購入者から備蓄されているパンを下取り回収し、食料を必要としている地域への送料は私たちが負担しています。これまで、多くの購入者に協力いただき、スマトラ島沖地震や東日本大震災など、国内外の多くの被災地、飢餓に苦しむ地域にパンの缶詰を届けてきました。それにより、パンの缶詰の社会的認知度も上がり、多くの地方公共団体や企業に購入・備蓄していただけるようになりました。そして、購入数が増えたことで、より多くの人を救うことのできる地盤を固めることができました。

■今後の課題

パンの缶詰は防災備蓄用のパンであることから、災害時等緊急時に需要が高まる傾向にあります。新型コロナウイルスの感染拡大による社会的混乱の中、パンの缶詰の需要が高まりつつありますが、臨時休校などにより従業員が休まなければならない、需要に十分お応えすることが難しい状況です。今後はどんな状況においても、パンの缶詰を継続的に生産できる体制の構築にも、力を入れなければならないと考えています。

